

2

術前の看護実践 2

術前訪問を活かす
(ベテラン手術室看護師の技)



上田純子¹⁾、石黒亜也子¹⁾、野村友紀¹⁾、立石雄也²⁾

1) 高知赤十字病院 手術室
2) 高知赤十字病院 救命センター外来

POINT

- ▶ 電子カルテから情報収集を行い周術期に必要な情報を整理しましょう。
- ▶ 電子カルテだけでは得られない具体的な情報を術前訪問で意図的に引き出しましょう。
- ▶ 患者がイメージできない処置について具体的な説明を行きましょう。
- ▶ 術前訪問で得た情報から問題点を抽出し看護計画を立案、担当医療スタッフで情報共有しましょう。

はじめに

術前訪問の目的は、患者に対し資料を用いて術前から術後の流れがイメージできるよう説明し、手術に対する心身の準備を促していくことです。さらにそこから得た情報から看護計画を立案し、周術期が安全安楽であるよう援助することも可能です。患者は手術室に入ってくるまで、手術が一体どのようなものなのか知らないことがほとんどであり、何かしら不安な思いを抱いています。適切な術前訪問はこれらの不安を軽減することができると考えます。

当施設での術前訪問は、それぞれの手術担当看護師に任されており、訪問するタイミングや説明内容に個人差があります。また、手術室退室から次の搬入までの時間短縮が求められるなか、限られた短い時間のなかで情報収集や術前訪問を行わなければならないのが現状です。しかし、そのようななかでも

倫理に基づき、手術を受ける患者の要望や思いを支える関わり	タイミングを見極め、時間を有効に活用する	経験的学習に基づいた情報収集の手順があり、自分なりの優先順位がある
術前に収集する情報の項目を熟知し関連づけて考える	※手術を受ける患者・患者家族をアウェイにしない距離感を築く	硬膜外麻酔、麻酔導入前後など患者が想像できない処置や痛みをイメージしやすいように具体的に説明する
知識に裏付けられた観察力を発揮し意図的に関連のある情報を引き出す	医師・スタッフ・コメディカル間で手術に必要な情報を把握し情報共有する	※無意識・潜在的にあるもの

図1 ベテラン手術室看護師が術前訪問で実践する技 (文献¹⁾より作成)

※印の内容につきましては、今回の特集内容には詳しい掲載はありません。

経験豊かなベテラン手術室看護師(手術室勤務10年以上の看護師)は、術前訪問で実施する技(図1)

をもっており、短時間で患者情報に目を通し、手術に関わる必要な情報を整理しポイントを絞り、さらなる系統的な情報収集を行い、体得している疾患知

識や看護のパターンを生かし、それらを適切な看護に結びつけることができています。

電子カルテから情報収集を行い周術期に必要な情報を整理する

情報の優先順位は患者の年齢、疾患、既往(表1)、術式、内服薬などの内容によって変わってきます。術前訪問に行くまでの情報収集方法としては主に電子カルテ(以下、カルテとします)です。ベテラン看護師は“経験的学習に基づいた情報収集の手順があり、自分なりの優先順位”があります。たとえば、カルテを見る順番を決め、カルテを開いたときに見

やすいように自分なりにカスタマイズし、目に入ってくる情報量を調整しています。手術申込書からは名前、術式、必要物品、年齢など、カルテからはデータベースやサマリーを参照し、検査データや同意書、外来・病棟看護師の診察記事などから術前訪問用紙の項目と照らし合わせ情報を整理しています。当院の術前訪問用紙(表2)は、データベースの項目を

表1 注意すべき既往歴とそれに関連した確認ポイント

既往歴	術前の確認ポイント	術中の観察ポイント
手術歴	<ul style="list-style-type: none"> ● 前回の手術時の状況(前回の手術記録の確認) ● 手術時の合併症(疼痛や不安、アレルギーの有無) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 前回と同一部位の手術時には癒着の可能性による術式変更に注意する
高血圧	<ul style="list-style-type: none"> ● 通常の血圧の値 ● 術前の降圧薬内服の確認(種類と当日内服の有無) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 血管弾力性の低下による血圧の変動に注意する ● 術野での出血量を確認する
虚血性心疾患	<ul style="list-style-type: none"> ● 狭心症と心筋梗塞の有無 ● 心機能と心エコーの確認 ● 内服薬の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ● 血圧や心拍数の変動に注意する ● 心電図変化に注意する(STの変化や不整脈の有無)
喘息	<ul style="list-style-type: none"> ● 発作の頻度と程度 ● 最終発作の時期 ● 発生時の対処方法の確認(吸入薬の準備) ● 喫煙の有無と状況 	<ul style="list-style-type: none"> ● 発作の予防に努める(室温調整と保温) ● 発作の早期発見に努める ● 吸入薬の術前投与
慢性閉塞性肺疾患	<ul style="list-style-type: none"> ● 喫煙の有無と状況 ● 肺機能の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ● 酸素化の状況の確認(必要時、動脈血ガス分析でのデータの確認)
糖尿病	<ul style="list-style-type: none"> ● 糖尿病の種類 ● HbA1cの値 ● 経口血糖降下薬やインスリンの投与量の確認 ● 当日の血糖値とインスリンの有無 ● 合併症の有無と状態 	<ul style="list-style-type: none"> ● 低血糖症状出現時の早期発見 ● 血糖測定と血糖コントロール ● 感染予防に努める
脳梗塞・脳出血	<ul style="list-style-type: none"> ● 意識レベルの確認 ● 麻痺や拘縮の有無 ● 内服薬の種類と休薬の有無 	<ul style="list-style-type: none"> ● 術前と術後での意識レベルや麻痺の状態を確認する ● 麻痺や拘縮がある場合、患者に応じた良肢位の保持
慢性腎不全	<ul style="list-style-type: none"> ● 腎不全の状況 ● 透析の有無 ● シャントの有無と部位 ● 尿量 	<ul style="list-style-type: none"> ● シャント音・シャントスリルの確認と保護 ● 術中の水分バランスの確認 ● 心電図変化に注意する ● 必要時、動脈血ガス分析でのデータ確認